

令和7年度 一般選抜前期日程 経済経営学部 英語
出題の意図と解答の傾向

英語力を総括的に測るために指示、設問も全て英語による出題とした。

Reading Section

【出題の意図】

比較のカジュアルな場面から社会的な話題まで広範囲のトピックを取り上げ、それらに対し英文の正確な内容把握・処理力を測ることを目的とした。具体的には、会話文、eメール、社会系読み物、広告文、雑誌記事などを出題した。高校卒業程度の英語力を基盤とし、設問に対する解答を正確に見つけ出す読解力に加えて、語法の知識を使用し文脈から状況を把握する力や現在の社会で起こっていることに日常から興味・関心を持っているかどうかにより解き易さが異なると思われる問題も出題した。

題材の総数は7種類、総設問数は25問とした。最初の問題は、レストランにおける会話で、情景を思い浮かべながら要点を読み取る力を測る出題とし、設問は3問設けた。二題目は、イギリスの公務員に関する社会的読み物とした。総語数は、約390語、設問は3問設けた。三題目は、高頻度で使用される定型表現を多く含んだビジネスシーンにおける依頼のeメールとした。ここでは、英語母語話者が使用する定冠詞の的確な語法理解を必要とする問題を含む3問を出題した。四題目は、アメリカの奴隷制度に関連する人物の伝記を取り上げた。総語数は約180語で、時系列に沿って流れを読み取ることを求める設問を3問設けた。続く五題目は、地球温暖化による海面上昇の影響を受けている島が直面している問題解決の選択についての読み物とした。近年世界的な問題となっているトピックをイメージしながら読み進め、取り上げられた島の状態や課題を読み取ることを求めた。総語数は約330語、設問は4問とした。六題目は、現実にある場所や交通機関の情報を含んだ旅程を出題した。旅程内の具体的な場所の情報を問う問題を含む出題とし4問設けた。七題目はまさに日々発展を遂げ話題となっている人工知能(Artificial Intelligence: AI)についての記事を取り上げた。今年度の出題中最も語数が多く、総語数は約670語、設問は5問とした。AIを開発する企業側の歓喜や苦悩を読み取る問題を設けた。

【解答の傾向】

Reading section の正答率平均は57%であった。大問によって多少のばらつきがみられたが、設問によるばらつきの方が多くみられた。大問に関して、最も正答率が高かったのは四題目の伝記と六題目の旅程表が続き、いずれも8割以上の正答率であった。最も正答率が低かったのは二題目のイギリス公務員に関する読み物で、約3割の正答率であった。

設問のうち、最も正答率が高かったのは、四題目の伝記の設問12で、Sojourner Truth氏が44歳のときにしたことを問う問題だった。次に正答が多かったのは、五題目の設問14で、マーシャル諸島の中心地(首都)は海拔どれ位かを問う問題であった。これら2問は数字を手がかりに文中の詳細情報を見つけて解く問題で、比較的解きやすかったと思われる。一方、正答率が最も低かったのは、三題目の手紙の設問8で正答率は2割ちょうどだった。長い英文をスピード処理し

ながら冠詞 a/the の用法を区別して文脈を理解する力を持っているかどうかを試される問題だった。このような読解力の養成には、長期間かけて大量の英文を内容重視で読みこなす練習が必要だろう。

一題目はレストランでの会話で、おすすめの料理や給仕係の問いかけの内容を問う問題などを出題した。飲食店を場面とする会話は高校教科書でもよく見られるので比較的読み易いと思われたが、出題者の予想に反して正解率は設問 1 で 24%、設問 2 で 43%と低かった。成句“come with”に精通していない者が多かったのかもしれない。二題目の公務員職についての読みものの問題も、予想外に正解率が低かった。特に設問 5 と設問 6 の正答率が低く、それぞれ 26%と 22%だった。本文で述べられていることと同様の内容の選択肢に気付ける語彙力を身に付けていない者が多かったのかもしれない。七題目は生成 AI にまつわる記事を取り上げた。記事自体は難しい語彙が使用されているが、5 問中 4 問の正答率が 5 割程度だったことから、注釈や背景知識を利用するなどして内容理解したものと思われる。最後の設問として正解するのに深い内容理解が必要な問題を出題したところ、正答率は 28%と低かった。明示的に情報として示されていない部分まで読み取れる力を身に付けてほしい。

Writing Section

【出題の意図】

日常から切り離すことができないレベルになっている AI を取り上げ、その活用について英文で論理的に説明する力を測ることを目的とした。具体的には、現在、日本が直面している問題を一つ選び、その解決にどのように AI を活用すればよいかを具体的な例を挙げて 100 語程度の英語で論理的に説明することを求めた。英文パラグラフの構成の基本的な知識ならびに適切なフレーズ使用の知識を測ることも目的とした。

【解答の傾向】

パラグラフの構成（主題文・支持文・結論文）やつなぎ語、大文字・小文字の使用などはできている解答が多い一方で、今回は問題文の読み間違いが特に多く見られた。パラグラフを書き始める前に、何について書くことが求められているのか、正確に把握し全体の構成をイメージしてから書き始めることが対策となるであろう。

「日本が直面している問題」として挙げられたものは、「少子化」「高齢化」「地球温暖化」「災害」「労働力不足」「教員不足」などがあつた。主題文では、取り上げた問題をクリアに示す必要があるが、それが書けていないものが一部あつた。主題文の役割を再度確認し認識してほしい。

支持文では、解決策を述べ、説明と具体例の両方を書くことを求めたが、片方しか書けていないケースが一定数見られた。具体例が書けていないものが多かった印象である。解決策の解答例としては、「高齢化」に対して話し相手になるロボットや体調管理・病気診断、「災害」に対しては災害予知や避難場所表示、など現実に役立つようなアイデアが書かれていた。結論文は、主題文と少し文言を変えて、複文などで書くことができていたものが多かった。

問題の読み間違いについては、「日本が直面している問題」ではなく「AI の問題点」について述べたものが多く見られた。また、結論文まで到達していないものや、数は多くないがライティン

グ問題にほとんど取り組めていない答案もあった。「正解」がない出題に対して、限られた時間内に自由に且つ論理的に英語で意見を述べるには、普段から社会問題や世の中の動きに目を向け、自ら考える力を持ち、同時に英語力も必要である。これらを意識して対策をしてほしい。